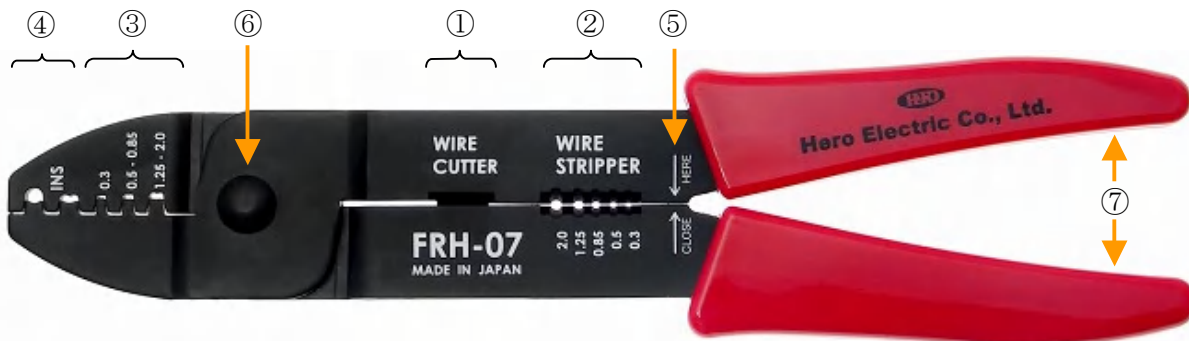


# FRH-07 取扱説明書

本工具をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。本工具をご使用いただく前に本取扱説明書をお読みいただき、内容をご理解の上、正しくご使用ください。お読みになったあとも、本取扱説明書は、必要などきに確認できるよう、大切に保管してください。

## 1. 各部名称



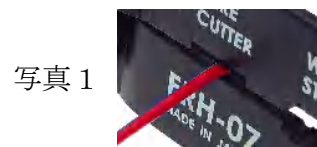
- ①ワイヤーカッター（電線切断） ②ワイヤーストリッパー（絶縁被覆剥き刃）  
 ③芯線圧着用歯型 ④インスレーション（絶縁被覆）およびゴム栓圧着用歯型  
 ⑤圧着完了確認部 ⑥センターピン ⑦ハンドル

## 2. 使用方法

### 2.1 電線の切断

電線をワイヤーカッター①で切断します。（写真1）

	<b>注意</b> 本工具の適用電線(0.3~2.0mm <sup>2</sup> )以外は切断しないでください。機能低下などの原因となります。
--	--



### 2.2 絶縁スリーブまたはゴム栓の挿入

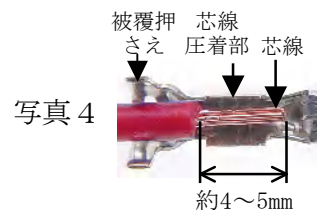
絶縁スリーブまたは防水ハウジング用の端子でゴム栓を使用する場合には、絶縁スリーブやゴム栓の向きに注意して、あらかじめ電線に通しておきます。（写真2）



### 2.3 絶縁被覆の剥き方

電線の絶縁被覆を絶縁被覆剥き刃②で剥きます。（写真3）  
 なお、被覆剥きの長さは圧着する端子の芯線圧着部より長めにしてください（端子の種類にもよりますが、約4~5mmが目安です）。（写真4）

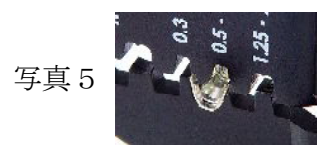
	<b>注意</b> 電線のサイズに合わせて絶縁被覆剥き刃②を選んでください。刃を誤ると芯線切断や傷が付く、絶縁被覆が剥けないなどの原因となります。
--	---



### 2.4 端子の圧着方法

#### 1) 芯線圧着部の圧着

- a 工具のハンドル⑦を開き、圧着する端子にあわせて歯型を選択してください。  
 選択した歯型に端子の芯線圧着部をはさみこみ、端子が抜け落ちない程度に軽くハンドル⑦を閉じます。（写真5）



	<b>注意</b> 工具に表示してある数字は、電線サイズを表していますので、歯型を選択するときの目安としてください。歯型を誤ると圧着不良などの原因となります。 ・歯型に芯線圧着部をはさみこんだとき、傾かないようにしてください。傾いていると圧着不良などの原因となります。 ・ハンドル⑦を閉じるときは、力を入れすぎないでください。力を入れすぎると芯線圧着部がつぶれ、芯線が入らない原因となります。
--	--

b 絶縁被覆を剥いた電線を写真6のように挿入します。このとき電線と端子の位置関係は写真4のようにします。


写真6



c 電線をその状態に保持したままハンドル⑦を、圧着完了確認部⑤が閉じるまで強く握ると、圧着が完了します。(写真7)

写真7




 <b>注意</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>端子と電線の組合せによっては、圧着完了確認部⑤が閉じない場合がありますので、その際は圧着状態を確認してください。圧着力が弱いと芯線が抜けるなどの原因となります。</li> </ul>
---	--

## 2) 被覆押さえおよびゴム栓の圧着

- 電線の絶縁被覆に端子の被覆押さえを圧着する場合は、INS ④右側の歯型を使用します。圧着は、端子の被覆押さえが絶縁被覆に食い込まないようにハンドル⑦の握る力を加減してください。(写真8)

写真8



 <b>注意</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>端子の被覆押さえが電線の絶縁被覆に食い込まないように圧着してください。被覆押さえが食い込みすぎると、芯線切断などの原因となります。</li> </ul>
---	---

- ゴム栓を圧着する場合はINS ④左側の歯型を使用します。圧着完了確認部⑤が閉じるまで握り圧着します。(写真9)

写真9



## 2.5 圧着の完了

芯線圧着部および絶縁被覆の圧着完了状態の例を、写真10および写真11に示します。絶縁スリーブ使用の場合は、電線にあらかじめ通しておいた絶縁スリーブを最後に端子にかぶせると作業は完了となります。(写真12)

写真10  
(通常の場合)





写真11  
(ゴム栓使用)



写真12  
(絶縁スリーブ B-3 の場合)



 <b>使用上の注意</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本工具の可動部(センターピン⑥)には、使用頻度に応じて注油してください。また、作業終了後は、油を含ませたウエスなどで工具全体(ハンドル⑦を除く)を拭き、錆が発生しないよう保管してください。錆が発生すると圧着不良などの原因となります。</li> <li>落下など、強い衝撃を与えないでください。センターピン⑥がゆるんだり、がたつきがでたり、その他異常が発生する原因となります。このようなときは使用を中止し、購入先にご相談ください。</li> </ul>
---	--

 <b>安全上の注意</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本工具は、自動車用配線補修以外の用途に使用しないでください。火災、けがなどの原因となります。</li> <li>本工具を分解したり、改造したりしないでください。火災、けがなどの原因となります。</li> <li>本工具で圧着する際、手動以外の強い力(叩いたり万力で挟むなど)を加えないでください。けがなどの原因となります。</li> </ul>
---	---